

授業評価・授業研究報告

保健体育講座・藤原誠

1. 授業の概要

本授業はスポーツ健康科学課程スポーツ指導者養成コースのコース必修科目、また、スポーツキャリア開発コースのコース選択科目である。登録学生数はスポーツ指導者養成コース18名、スポーツキャリア開発コース3名、計21名である。このうち1名は履修登録のみであり、実質受講者数は20名である。

受講者が初めて学ぶ領域であり、専門的知識を修得する必要性から、授業の実施形態は、講義形式が主体となる。これに加えて、視聴覚の機器の利用、さらに重要なテーマについては、小グループでの討論・発表という手法も取り入れている。

成績評価は、中間試験と期末試験の成績に基づき行っている。試験の結果、授業内容の理解が不十分な者については追試験を行い、さらに理解を深めるよう配慮している。

2. アンケート結果

授業の最終日にアンケート調査を実施した。調査内容は、授業に対する取り組み状況、授業内容や理解の程度(授業内容、授業レベル、理解の程度等)、一番関心をもった授業内容、授業方法、授業外学習、その他授業全般についてである。回答はすべて自由記述である。以下に結果の概要を示す。

1) 授業に対する取り組み状況

「関心をもち、授業に積極的に取りくんだ」、「授業では、メモやマーカーをひきながら取り組むことができた」など、熱心に授業に取り組む者が多い反面、「授業に対する姿勢はあまり良くなかったように思う」、「遅刻や欠席を数回してしまった」等、やや受講意欲に欠ける者もいた。全体としては良好な受講状況であるが、ごく一部の者が欠席や遅刻を重ねるという傾向がみられた。

2) 授業内容、授業レベル、理解の程度

「自分の興味が持てる授業内容であったし、レベルやスピードもちょうどいいくらいであった」、「適度なレベルで理解しやすか

った」等の記述もあるが、「理解しきれない部分があった」という記述もあった。初めて学ぶ内容も多く、このような記述に至ったことも予測される。丁寧な学習指導に配慮したい。

3) 一番関心をもった授業内容

本授業の内容は多岐にわたっており、受講生の関心も個人により異なり、多岐にわたっている。「総合型地域スポーツクラブについて」、「トリム運動関連の一連の流れ」(ドイツのスポーツ政策)、「スポーツ産業について」等があげられている。

4) 授業方法

授業方法については、「指名したり、グループワークがあったり、ビデオを見たりと様々でとても良いと感じた」、「全員を当てたり、グループワークをして、全員参加の授業が楽しかった」等の記述もあるが、「グループワークを増やして、いろいろ話し合いたかった」との指摘もあった。グループワークは確かに受講生が主体的に取り組めるメリットはあるが、それだけでは十分な専門的知識を身につけることが難しいと感じている。

5) 授業外学習について

授業外学習について、実施内容や、実施したら良かったと思う内容について尋ねた。授業で気になったワードを調べたりした、「良くやった方だと思います」等の記述もあるが、「テスト勉強によるものがほとんどだった」という状況が多い。授業関連の事項についてインターネット等による情報収集等を促したが、自主的な学習はほとんどなされていない。課題・レポート提出を求めることは簡単であるが、それを求めなければ授業外学習がなされない時代となってしまったことを痛感する。

3. 総括

学生からのアンケート調査の結果を含めて今学期の授業について振り返り、学生が真に主体的に取り組むことができる授業とはどのようなものか、再考してみたい。